



五味平一議員

事業推進と収支のバランスは大丈夫か

自主財源46%をキープする

質問・・・財政収支のバランスの現状は。

町長・・・当然バランスはとれている。

質問・・・財政政策の基本的考え・新年度の新しい取組・重点事業について。

町長・・・予算編成の基本的考えは、予算書・広報等・全協にて説明してある、改めてここで説明する必要はない。

質問・・・町が補助金を支出している団体名・交付額は。

町長・・・68団体・補助金額22億円。

財務課長・・・68団体は集落とその他の団体で団体名は省略したい。補助金は交付規則、また要綱で毎年度見直しを行っている。

質問・・・繰り上げ償還7億2千万円の内28年度予算への充当額は。

町長・・・1億8千万円を事業費に当てている。

質問・・・自主財源の確保事業の「選択と集中」の具体的行動は。

町長・・・パノラマの借金返済で1億8千万円、メガソーラーで6千5

7千万円の財源が確保され、借金のための借金が実質ゼロとなり不良債権が解消された。

質問・・・行動的課題である人口維持についての考えと、対する予算額は。

町長・・・人口対策として4千2百万円。

※町長の答弁に丁寧さが欠け、丁寧な答弁を行うように求めた。

質問・・・過去3年間の

自主財源・依存財源の割合及び先の見直しは。

財務課長・・・3年間の自主財源は概ね46%、依存財源は54%であるが28年度の当初予算では、自主財源46・4%、依存財源53・6%台であり安定している。

29年度から31年度までの資料として提出しているものであるが、自主財源、依存財源の割合は、漸次減少し平成31年度には自主財源41・8%、依存財源は58・2%と推測されるが、5次総の計画によりなるべく自主財源を46%台にキープできるように各施策を進めた。

※参考

町が自らの手で徴収または収納する財源を自主財源、国から定められた額を交付されたり割り当てられる財源を依存財源という。

第4回議員勉強会

■平成28年3月14日

富士見町議会は3月14日、町役場で第4回議員勉強会を開きました。テーマは、町教育委員会が5カ年計画で実施する「コミュニティスクール推進事業」です。講師は脇坂隆夫教育長のほか、県教育委員会南信教育事務所の曾根原正樹課長、林尚之指導主事の3氏を迎え、町内の保育園、小中学校で行う事業計画の説明を受け、学校と地域が連携して子どもたちを育ていく「富士見型コミュニティスクール」への理解を深めました。

町教委は2016年度、既に始めている境小学校と、境・落合の両保育園から先行して実施する予定です。

議員からは「PTA、保護者会との関係は」「町の教育方針との整合性は」などの質問があり、脇坂教育長は「学校運営と一緒に考えていく仲間、（学校という）チームをつくることでもある」と解説しました。議員からは事業に期待する声もあり、加々見議長は「地域の活性化も図れます。議会として応援したい」と期待しました。（川合弘人）



「コミュニティスクール推進事業」について説明する脇坂隆夫教育長（中央）と、曾根原正樹課長（右）、林尚之指導主事（左）